滿州日報

○報價目
毎月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者毎行二角毎登十日一行一角五分登月者毎行毎日一角 登長年者價當面議從減 毎張四百文

一連紙 一圓 一フールスカップ 仝 四圓 一中判洋紙 仝 二圓 一半紙 野紙 百枚 二十錢 一卷紙 四十枚續 十四錢
一椅子 一圓五十錢 一箪笥 三十圓以上四圓五十錢 一卓子 四圓五十錢以上十五圓 一卓子掛 六圓以上十二圓 一廚房用戸棚 七圓五十錢以上十圓
一長火鉢 八圓以上十二圓五十錢 一箱火鉢 二圓以上三圓五十錢 一宣德火鉢 一對 六圓以上九圓

料 一長期連揭減價面議

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓
本支店出張所 横濱 神戸 東京 長崎 大阪 倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇 孟買 香港 上海 天津 北京 大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話 十番 支配人室 百八番 事務室
横濱正金銀行牛荘支店

日本郵船株式會社 瀛船出帆廣告
長幸丸 三月廿八日着
山東丸 三月廿九日發 大沽、芝罘、門司、神戸行
相模丸 四月三日發 大沽、芝罘、仁川、釜山 長崎、門司、神戸行
横濱丸 四月五日發 大沽、芝罘、門司、神戸行
乗船切符發賣は出帆前三時間マデ 未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ
營口代理店 旗昌洋行 (電話廿六番)

瀛船出帆廣告
頼朝丸 大阪、神戸、門司、大連、營口間定期航海
摩耶山丸 同上
錦龍丸 芝罘、營口間定期航海 三月廿四日芝罘行
營口代理店 松茂洋行船舶部

東營口郵便局東隣 島田洋服店
新民屯停車場前 同支店

三井洋行
倉庫部
●精製白砂糖新入荷物あり
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歴所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷着
今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候 (電話百二十八番)

宅合名會社分荘
本號前在營口東營元神廟街自造日本清酒澤鶴印幷其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院内分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲綫衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋陳鑵表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸
運輸部
這般特得官准開設火車轉運行於東西兩店幷牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中賴之助謹白 電話 東店五五 西店一三

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並匯兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寛大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人 葉亮卿謹白

東永茂
榮票油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物幷代客荘運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寛大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號
係裝運各幫火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北營乙第十二號

代代木烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌(斯達)櫻花牌(摸拉)百合花牌(利利)均已馳名内外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價値極廉 諸君欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

永順洋行
本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街 東櫃(電話九十五番)
西義順棧内 西櫃(電話架設中)

三井洋行經理
明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一核章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議(電話六十六番)

㊂丸三洋行分荘
啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋緊身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價値格外從廉賜顧者請光臨本行面閲是幸
九三洋行分荘謹啓

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し夙に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口 瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歳常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便茲因添設樓宇地勢寛宏學生宿舎各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名毎日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白

營口瀛華實學院

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部 河岸通(電話五十二番)

聲明丟失滙票

啓者於清歴正月二十二日有營口永同和在阿什河買和順昌匯票兩張計該號昌字十七號永 記名下 平銀五仟參百五拾兩整又拾八號功 記名下 平銀二千六百七十五兩整均係二月二十五日准期營口付銀此票係於正月二十二日由阿着合盛信局悄營不料路中丟失今已向該營分號掛號説明此二票無論失落何人之手作爲癈紙望各中外 官商切勿收用特此登報以爲聲明

清歴二月二十四日

永同和主人啓

失票聲明

啓者本號於本月十四日接省城來電云有阿什河寶泉長在阿由和順昌匯妥長記名下平銀一千零柒拾兩整係昌字二十八號至營交與本號代取此票托友携營不意行至奉入車站偶逢匪人竟設僞局詐去當即寄電之後本匯主業已來營即至同興宏内厲和順昌該二家自昔頗有相契刻間已將此匯款如數使出倘有 官商拾得此票者即作廢紙特此聲明

二月廿一日恒增通主人啓

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧急之需
國本主人啓

㊐東清鐵道裕和盛運輸局 (電話八十一號)
在東營口西北街旗昌洋行對門
啓者本號向在日本長崎開設數十年幷分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理主人 周鶴雲
運輸部主任 高濱麟太郎 謹啓

營口商業學校招入學生

本學校由客春開學以來肄業諸生頗著成效茲因添建樓宇增設講堂應需器具種々皆備現擬招入第二次學生

宗旨 造成辦公實業家
學科 修身、漢文、詞章、習字、算術、圖書、地理、歴史、理化、商律、簿記、理財、商品、商業學、日語、英語、体操
學額 五十名
資格 十五歲以上文理明通者
學費 特免惟寄宿者生自備饌實餘皆本校墊辦
入學 陰暦三月初一日
夜班 專爲有志向學而白晝忙於謀生者計毎晩兩點鐘之功課授以漢文算術商業學日語以一年爲限
○欲覧各樣詳細章程可到本校索閲

一、東清鐵道貨物取扱
一、貨物集配
一、瀛車貨物積卸シ
右は安全、速達、誠實、廉價を旨とし精々御便宜を計り申候間多少に拘はらず御出荷奉願候
關東總督府特許
營口西北街(電話一八番) 牛家屯亭車場構内(電話四六番)
丸重洋行

聲明假冒

協泰昌與記絲號大有昌洋雜貨號外面並無作保等情近因同字號最多恐有假冒本號圖章特此聲明

本號主人白

上海 中井洋行
專運日本各式紙料
本行開設已歴多年曾與日本製造名廠訂有專銷之約凡新聞紙料印書籍各式紙料莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙料五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本號行出售 貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也
中井洋行

自造 煉瓦●瓦 並に各種石材販賣
營口青堆子 加州組 (電話八十六番)

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候
三井物産合名會社 牛莊支店 (電話六十六番)

東洋號運貨局
本局新設新民府今經官准由新民府至奉天開辦運貨凡鐵路運貨比之車運速而廉衆人所知也本局所辦事宜誠實爲旨懇切受托童叟不欺且運費格外公道以籌貨主之利便不論貨種多少論担算或論噸算均可倘有遺失壞本局照價賠償若需客票本局亦可飭人代買如蒙仕商賜顧請至本局或奉天支局面議寄函可也特此週知
新民府輕便鐵路火車站東洋號運貨局本店
奉天輕便鐵路火車站東洋號運貨局支店

倫敦電報

●露國外相とモロッコ會議　佛國ルタン新聞の報する所に據れは露國外相ラムスドルフ伯はモロッコ會議に列席せる全國代表者に打電して獨國新聞紙の報導に係る露國は獨國の提議に賛成を表せりとの事實を打消し露國は常に佛國の忠實なる同盟者なる旨を言明せりと云ふ

●王位覬覦者の書束　モロッコ國王位の覬覦者はアルジエラスに於けるモロッコ會議の列席者に宛て余は眞正なるモロッコ國王なりとの旨の書束を送れり

（以上三月二十一日發電）

雜報

●大連通信（三月二十日發）

▲大連及柳樹屯より送り出したる凱旋兵之か用に供したる用船噸數は約三百五十万噸との事に候▲昨十九日より守備軍を構成しつゝありし者の內の豫後備兵歸還乘船を始め候來る二十五六日迄には之れか乘船終了の筈との事に候▲去二月末大連戸數人口戸數千二百六十四、內官舍二百四十、空戸百二十九空戸とは多くは殘燒火屋等ならんと存られ候、人口、男三千百七十五女二千百三十八、之れを一月末に比せは男十百九十七人を減し女百九十九を增加せり、男の減したるは奉天鐵嶺其他に居住換したるもの、多き、女の增加したるは家族等の內地より渡來せる者多きに居るとの事に候▲大連郵便局毎日平均郵便物引受數は五六千通昨年十二月に於ては四五千通なりし（民間郵便）漸次月を追ふて增加如斯に御座候、昨十二月に於ては軍事通常を合して毎日二万通あり今は一万二三千通に過きす軍事郵便の大いに減したるは勿論の事に御座候尙毎日六七千通の軍事郵便あり之れは民政署鐵道其他の大官衙の依然存在するによるなるへし▲大連郵便局か取扱ひ爲換取組高口數毎日百二三十、金額約七千圓の平均に御座候▲去九月より本年一月に於て大阪商船會社の取扱ひたる乘客數は上陸者五千九百二十六人、乘船歸來者三千五十七人・差引殘留者二千八百六十八人に御座候、而して社船のみにして若し社外船の乘客數を同樣のものとして計算すれは去九月より一月迄五個月間の大連上陸者は一万千八百五十二人、歸來者六千百十四人差引殘留者五千七百三十六人といふ數を得可申候▲當地の人口警察の調査によれは前記の如しと雖も其實七八千人乃至小一万人居住民あるかとも考られ候（在大連安齋生）

●昌圖府來信（昌圖居留者及旅行者の注意）

▲北方旅行の嚴禁　昌圖軍政署憲兵長田中利秋氏の言を聞くに近來暖氣につれ內地人の當府に入込む者日に多きに及ぶ而して彼等の過半は一攫千金を夢みるもの乃至は當地を第一階段として北方寬城子地方へ密行せんとするもの多きやに聞く然れとも北方旅行に就ては好し其筋の眼を瞞まして巧みに密行し了りとて露人の警戒亦頗る嚴なれは到底其目的を達する能はさるへし又に當府於て遊戲業（文廻し、玉轉かし、射的等）を開店せんとするも是亦其筋の許に依り當分許可せられされば如上の目的を以て來るものに在ては徒らに旅銀と時日とを徒費したるのみにて空手飯還の止むなきに至るは誠に氣の毒の外なし是れ實に淺慮にして法規のそれまでに嚴なるを思ひ到らさるに因るものならすんはあらすされは當地方に旅行を志すものはこれ等法規を充分に心得をくこと肝要なりとす

▲昌圖視察の必要　當地は我軍政施行地域の第一線に位すれば逸早く飛入りて優先權を握り甘利を壟斷せんと企圖するものあるも昌圖は人口二千五百十五人口一万六千百二十二の支那人と某守備隊の若干とあるに過きされは需要固より多々ならすされは無鐵砲に多量の物貨を輸送し來る等は誠に無謀たり當地を察せすして輕々事を爲さんとするものは遂に大敗を免れす故に此地に營業を企つるものは先つ一應の視察を了へ確たる見込を立て、然る後事を始むるは最も肝心のことなり殊に料理店旅館等は客人の少きにも拘らす多數入込む時は大なる損害を被むること疑なし

▲到着屆出の注意　本月十五日より施行の旅行規則に據れは目的地に到着したりとて同地の官衙に屆出を要せさるに似たれとも當府軍政署に於ては旅行者にして到着後三日以內に屆出（庶務課警務課共）なきときは相當の處罰あるへきを公示しあれは之を等閑に付するときは意外の不幸を見ることあれは見れまた豫め注意すへきことゝす

▲昌圖市街の位置　昌圖と云へは直に昌圖停車場の如く心得同驛に下車して曠漠たる原野を一望し施すの餘地なしと考を浮へ早速飯還するものあり昌圖府は同驛を距る西方三里弱日本里程の地點にして地理を知らさるものは輕便鐵道に沿ふを便とす又遼河最奧の碼頭たる通江口は昌圖府より西南七八里に位置せりこれまた旅行者の參考迄に蛇足を添ふものなり（高山生）

●滿洲近事

▲日本人の土地買收　奉天通信なりとて津報の報する所に依れば日人新民府に在りて民地を强買せるを以て該府沈太守趙將軍に稟請するに法を設けて禁阻せんとをいてせしかは日人は何は未た允許を得すと雖も聞くか如くは外務は已に趙將軍の電報に接し近日內田公使と交涉を開始すへしといふ

▲奉省銀行の日清合辦　奉天省にて銀行を設立すへしとは久しく傳聞せる所なりしも未た實行の運ひに至らさりしか此事已に外商兩部の議定を經て日本と共同經營以て資本の充足を期する筈にて不日人を日本に派し銀行條例を調査せしむる筈なりと又津報に見えたり

▲吉省の露人採礦延期　吉林省爽皮溝の礦坑は去る明治三十四年中露人か前吉林將軍長順氏の許諾を得て開掘の約を結ひしも其後約期の經過するも尙採掘に着手せさるを以て外部は此程駐淸公使に對し當然權利を喪失せる旨を通告したるに同公使は大に驚き自ら外部に出頭し嘗て四川省に於ける英國の前例を擧けて再三强請する所ありしを以て淸廷も已むを得す其乞を允るし延期を承認せりといふ

▲淸廷の滿洲政治視察　近時淸國は滿洲の政治に關し大に注意し來れる結果外部は近日中に參議或は兩丞の中を選ひて滿洲に派遣し刻下の政治情況を視察せしむる筈にて目下其人選中なりといふ

▲奉天露淸銀行の窮狀　天津大公報の傳ふる所に依れは在奉天なる露淸銀行は目下頗る窘迫の狀態に在り不日閉鎖の已む無きに至るへしといふ更に傳聞する所に據れは已に閉鎖に決したりとも傳へらる信僞未た保すへからず記して後報を俟つ

▲滿洲の淸國郵廳　滿洲に於ける淸國郵政は秩序の回復と共に淸國に於て其郵政廳を復舊しつゝあるは屢々記載する所なるか頃者奉天海城蓋平の三處は已に交通自由と爲れるを以て淸國にては愈々郵政局を開設し一般の信書及ひ小包の發送を取扱ふと爲れりといふ

▲奉天省の彩票　彩票即ち富籤の設けは淸國各省到る處に之れあり奉天亦其制に倣ひ本省に彩票を發行せんとし已に趙將軍より奏請に及ひたるも未た何等の沙汰に接せすといふ

●滿洲博覽會と總督府　五月一日より奉天に於て滿洲博覽會を開設せらるへき由は豫て報道せる所なるか今同博覽會に對する總督府の方針なりといふを聞くに奉天は目下尙開市場たるに至らさるを以て博覽會として之を許可せさる筈にて若し發起人より開設請願書を提出する場合には單に共進會又は商品陳列館として許可すへき方針なりとかいふ尙昨紙奉天雜觀中朴捨生が同博覽會に關する記事に照合せは此間の消息以て其大槪を察知するに足らんか

●趙將軍名代の總督訪問　此次奉天將軍趙爾巽氏は其名代として直督袁世凱氏の子息袁芸臺氏を遼陽に派遣し大島總督を訪問せしめ陶大均氏も隨行したりといふ大島總督も不日巡視の節は奉天に赴き答訪を爲すへしとぞ傳聞す

●人物月旦（下の上）　覆面郞

中村錠太郞君

中村錠太郞氏は東京の產にして三菱商業學校の出身也明治十七年初て正金銀行に入り爾來七個年の間連續して本店に勤務し明治二十四年拔擢せられて倫敦支店詰となる斯て倫敦に勤務する更に四年明治二十八年を以て歸朝し橫濱に於て本店に勤務する三年明治二十九年再ひ上海の支店に轉勤を命せらる而して上海に在る三年明治三十二年營口に來りて今の牛莊支店を開設し爾來以て今日に至る敢て疑ふ彼は銀行に衣食するか爲に呱々の聲を擧けたる者乎試に今ま彼の初て銀行の人となれる明治十七年に溯りて今日迄の銀行に於ける勤務の年月を通算するに實に二十二年となる即ち假令今日に於て銀行業務を廢止するも彼の半生は出納事務を以て充たさるゝ也彼は僅に銀行に衣食するか爲に生れ來りたる者と謂ふに足る抑も彼は銀行業者に適當なる人物なるか

營口に在住する六千餘人の同胞に付て正直家の投票を募集せは不正直なる投票者の頭腦も一時は中村錠太郞の五字の往來に迷惑を覺へさるを得さるへし熱心家に付て投票を募集せは如何に投票に不熱心なる者と雖も中村錠太郞の五字は覺へす知らす筆を走らすへし蓋し中村錠太郞氏の熱心は萬口復た異論無き所彼の風采は慾目に觀るも凛々たる威風の認る所無きと共に惡意を以て相するも險惡の指摘す可き點の個所あるを覺へす彼の音聲は彼の風采と共に威嚴を添ふるに足らす然れとも艶乎として艶なる床しき音聲は心中の溫順正直を表證して彼の信用を加ふる當に一段也彼の頭髮は彼を裝飾するには餘りに不足也、然れとも思想の周到綿密と業務の熱心老熟は其白からさる、黑からさる頭髮に依りて復た優に說明せらる

彼の態度は役人風には非す、然とも亦た商人風には非す役人風に非る役人風也、商人風に非る商人風也、換言すれは商人風の役人風也、役人風の商人風也商店にして商店に非す、官廳に非すして官廳の如き我か今日の銀行に半生涯を連勤したる彼に於ては斯の如きの態度は寧ろ當然と謂ふへきか、

想ふに銀行家の必要條件か正直と熱心とに在り而して風采も亦た正直と熱心を表證するを必要とせは彼は確に銀行家に適當の人物也先天的の銀行家也、然り正直と熱心は銀行業者に於て最も大切なる條件也、彼の其風采に於ても正直と熱心を表證するものあるは彼か銀行業者として成效を豫言せる者と謂ふへし

彼は先天的の銀行家也夫れ巳を知る者は巳に若かす彼か自ら顧て銀行學を修得し銀行業者となりたるは則ち分に從ひたるの道にして乃ち智者の遣口なりき假令其の性質は銀行に勤務するに適當せさる者と雖も二十年以上も銀行に於て其事務に從へは自ら成効せさるを得さるに非すや況んや彼の如く先天的銀行業者なる者に於てをや中村錠太郞氏か銀行家としての今日の地位に決して怪むに足らさるなり彼は大なる人物に非す然れとも彼は完全せる人物也彼は學者に非す然れとも彼は實際家也彼は大なる人物に非る故に大業は彼に於ては到底望む可らす然れとも彼は完全せる人物也小ジンマリに締れる人物也故に適當の事業に於ては失敗を見さる也彼は學者に非す故に事物に對する立論橫議は其長する所理は甚た得意とする所ならさるへからす彼は分に安んする者也、唯夫れ分に安んす故に其生涯には波瀾なし、過去の經過か平凡無事なりしと共に將來の經過も亦た驚瀾怒濤の觀る可き者無かるへし彼の分を守りて勤さりしは人物の小ジンマリと締れるが故也生涯の波瀾の觀る無きは人物の大ならさるか爲也彼か分を守りて懈せす故に復其業務に對し益々修練の効を示す業務益々修練の効を示して修學の精神愈々減殺せらる彼は遂に實務を以て一方に割據する所の人物也想ふに彼の將來は實務の將來也而して實務の將來は安全の將來也

波瀾の多き生涯は彼の望まさる所に非すして好まさる所ならん實務に從事するは彼に於ては餘儀なき勤務に非すして寧ろ快心の嗜好ならん果して然らは世間の所謂大業や學者の事業は彼よりして見れは宛として一種の厄病神の如き乎其人物の大ならさるは彼に於ては寧ろ仕合せ也而して學者に非るの一事も彼に於ては固より少しの悲みの種ともならさる也

●聞見錄

露淸銀行營口支店に於て面白い話がある、神戶に歸化淸人の福合號と云ふ店があつた恰度營口に大豆の出荷する最中に其の大豆を買入れさす爲に營口の出張店員に宛て、神戶の露淸銀行支店に八萬圓の送金方を依賴した暫くすると出張員に對し其の送金證か到着したので出張員は早速露淸銀行營口支店に驅付けて八万圓の受取方を申込むだ所が行員の云ふのには生憎、サツキに大口の引出しがありた斗りで少々閉口するから切めて二三日間丈けの猶餘をして貰ひ度ひとの仕方が無いから出張員も然らばと承諾して引歸した後ち二三日經て更に受取に出て見ると復た當が外れて困りて居るから今一兩二三日の猶餘を請ひ度ひとの挨拶である▲此の出張員は矢張り支那人であつたが如何に支那人なればとて此所に至れば一言無きを得ない彼は行員に對し憤然として其不都合を詰責した所が行員は一向に頓着せない何所に風が吹いて居るかと云ふ風に極めて平氣に成程一應の御立腹は御最もであるが前申樣の次第で銀行にも當が外れて甚だ迷惑してるのでと丸で鼻であしらつて居る、畜生ツ不都合の餓鬼目がと腹の中では怒つて見たが其所が支那人である到頭不平乍らも今一回引出を延期する事を承諾した斯くて數日を經て今度こそは相違なく拂渡すであらうと十分の確信を抱いて樂んで銀行に行つて見ると豈に料らんや例に依りて例の如く又々無いから待つて呉れいとの答辯斯樣の具合で何んでも其の出張員は金の到着以來十四五日間も其の拂渡しを引延ばされたと云ふ事だ▲斯つて神戶の本店では送金したから不日品物も到着する事と深く其の到着を信じて客のありたのを幸に先賣をして居る、固より無理の無い話であると共に支那人の商業に拔目の無いのが知れる、所が待てど待てど大豆は一向に到着せない全体ドウシタ間違ひであらうかと非常に心配してると一日營口の出張員からの樣子があつた驚くの驚かないのつて店主は顏の色も青ざめて居る店員共が事情は如何にと問へば事情も何もあつたものではない丸つ切り買つて居ない其れは又た何故にと店員共が呆れると斯々の次第で商機を逸し買ふ事が出來なんだと云ふのであるとの話しサア一家擧げての大騷動▲其中に流石に店主丈けに善い所に氣が付いて早速二人押しの腕車を飛ばして某日本の辯護士を訪問し露淸銀行に對する損害賠償要求の訴に付て辯護士の意見を求めた辯護士は無論成立すると一言に云ひ切つた其所で店主も多少意を安んじて然らば何卒と其の辯護士に損害賠償の請求を依賴して事を回らして歸宅して店員等にも其の事を語りて此所に一同もヤツト蘇生の思ひ▲暫くすると其の辯護士に依り露淸銀行は損害賠償請求の訴へを提起せられた神戶の同行支店は直樣營口支店に其事を通報すると同時に其の行動を大に非難した今度は露淸鈔行營口支店が大騷動斯ふなれば福合號の出張員を取込み事實を曲げて抗辯するより外に道が無いと早速迎への者を派して其出張員を呼び寄せ偖て云ふ樣貴樣は本店に向つて飛んでも無い報告をしたではないか全体本行が何時貴樣に其仕拂を抗んだか乃至猶餘を請求したか實に不都合千萬では無いか事實を詐りたる貴樣の報告の爲本行には今日損害賠償請求の訴訟を提起せられ非常に迷惑を感じて居る、本行の迷惑を解除するは實に貴樣の責任である云ゝ、出張員は聞いて呆氣に取られた由來露國人はズウ／＼しいとは兼て承知せるも斯迄ズウ／＼敷き者かと彼は今ま親敷其の聞きしに勝るズウ／＼敷加減を見て驚いてしまつた、暫時經つと彼は支那人乍らも憤慨の餘りに眼を怒らして食つて掛つた、飛んでも無いとは何れが飛んでも無いのであるか、不都合とは又た何れが不都合であるか實に言語同斷の話である斯て其日は終つてしまつた▲翌日になると早速露國の警察が彼の宿所に出張していやを云はせずにフンジバツテ歸つたが後に於て訴訟は彼が八萬圓の金を露淸銀行から引出さなんだのは敢て露淸銀行に彼是れの譯が有つたのでは無い全く自分と銀行と合意の結果であるとの彼の記名捺印したる立派の證明書の提出に依り到頭福合號の敗訴に歸したとの事である當年の露淸銀行は中々破天荒を遣つて居つた哩（聞見子）

投書かご

▲記者足下まだ御存じないのですか元神廟街某雜貨店のヂヤングイと翁亭の藝名らくとやらいふ二人の仲を、ヤーそれは／＼頗るちんちきを遣つて居るので店員なとは唾涎萬丈であるツイ此間兄キにせがんで假妻君と立てたが彼の女の素性が極めて小說的ぢや一つ探つて見給へ（馬鹿八郎）▲顏の美醜を問はず老實にして實用向なる獨身の女を女中に雇入れたい希望の人は鳥渡投書籠迄お知らせ下さい（炊事男）▲一昨日の祭日には領事館迄が休まないでセツセ執務をして居たが直接人民の便利の爲めに出來て居るべき郵便局が何時も正直に休業するのは其意を得ないちつと在留民の便利を圖つて呉れぬと議會に持ち出して海外郵便局の經費から手當を大削減して了ふぞ（牛刀生）

●露兵はでくのぼう　烏港及び哈爾賓の露兵叛亂は露國の痛棒たり露國は幸にして一時鎮壓の奏功を得たりと雖も何時再發するやも圖られさるを以て軍隊には總へて兵器を携帶せしめさることゝ爲したる由北方歸來の旅客談に見えたりチト受取難き說なれども果して言にして違はずば露兵は是れ生ける「でくのぼう」なり露國の前途以て推するに足る

車　行

▲上行車時刻表

站名	午前 時點分	午後 時點分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇
山海關至天津	上[illegible]	下五、五五

▲下行車時刻表

站名	午前 時點分	午後 時點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一
北京至[illegible]	下二、四〇	下八、三〇

稅關手續

一、船舶輸出入荷物取扱
一、荷物保管
一、日本郵船部、同漕部
一、爲替附キ荷物ヘ便利ヲ計リ[illegible]

弊店儀從來平野町に於て左の營業致し居候處此度商業擴張の爲左の所へ移轉仕候間倍舊御引立の程奉願上候

諸鐵工製作　鑛山船舶機械鐵工

營口　[illegible]川鐵[illegible]

天氣豫報　營口地方　自三月廿三日午後六時至三月廿四日午後六時

南又は東の風雪

小說

新作小說　**おとし胤**　德田秋聲

（十九）

「何うだ？懇意かな。」
と巨漢は、更に訊ねた。
健三は、頃刻言惱むでゐて、やがて口籠りながら、
「そりや懇意なことは、懇意だけれども。」
「餘程の懇意と見えるな。」
と巨漢は透さず突ッ込むだ。
「然うでさ。」
と健三は、遂々濁を吐いて了ッた。
「然うだらう然うだらう。」と巨漢は、幾度かうなづいて、「餘程の懇意でなくッては、今頃那の墓へ詣る筈が無いからな。」
「ですが、こりや光さんに秘して行ッてゐるのです、光さんは、俺が此樣なことを爲ることは些とも知りません。」
其の性分だから爲方が無い。健三は何時の間にか眞箇のことを謂ッてゐるのであッた。
「光さんに秘して行ッてゐる？……… ふむゝ。何故？」
「何故ッて、其の、格別是といふ譯も無いですが………」
「格別譯が無い？……… 妙だな。少々合點か行かんな。」と謂ッて、突如に、「噓を吐け！大きに譯があるのだらう。大變な譯があるのだらう。大變の譯があるから、那の墓へ那樣な花を手向けたのぢやないか。那の花は、墓の主よりは、光さんの爲に手向けるのぢやないか。」
健三は、彈かれたやうに頭を擡げた。そして狼狽えた眼で、巨漢の顏を見詰めながら、
「そ、其樣なことがあるものか。其樣な馬鹿なことが！………」
「隱したッて可けない！………　俺にも覺がある。」
「貴方にも覺がある？………」
「然うだ、昔な。だから何も隱さんが可い……………な。まア、其は可いとして、お前は何んだらう、光さんの爲になることなら何樣なことでもするだらう。爲なければならん義務があるだらう。」
「そりや何んだ、眞箇に光さんの爲になることなら！………」
「爲になることなら、爲るんだね。よろしい。それぢや、俺の賴は聞いて與れられる譯だ。俺の賴といふのは、無論光さんの爲になることだ。」
「一体お賴といふは、何樣なことなんです。」
「何有、至極簡短なことさ。たゞ此の手紙を確に光さんに渡して貰へば可いのだ。」
「其の手紙を？………」
「然うだ。併し秘密に渡して貰はなければならんのだ、誰にも知らさんやうに………　可いかね。それから私と此處で逢ッたことも秘して置いて貰はなければならん。」
「そりや何んの爲です。」
「何んの爲と謂ッて、光さんは今、非常な危險な地位に立たせられてゐるのだ。まるで詠を知らぬ者が、川へ陷ッたやうな有樣さ。俺には、光さんの此の災難を救はなければならん義務があるのだ。それで態々、東京から出掛けて來たのだ。」
「貴方は、東京から來たんですッて。」
「然うだ、お前は知ッてゐるか何うか知らんが、光さんの許へ、昨夜東京から來た客がある。此奴が無理にでも、光さんを東京へ連れて行かうといふのだ。併し連れてゆかれては大變だ。光さんは或事情の爲に、東京へ行くと非常に酷い目に逢はなければならない。それで俺は、何うでもして、光さんの東京へ行くのを妨害するのだ。お前だッて、光さんの爲を思ッたら、光さんの東京行妨害の爲に少し位骨を折ッても可いだらう。」
「そりや然うです。」と健三は、例の分別臭い顏をして、「併し、そりや到底駄目でせう。幾ら骨を折ッたッて効がありますまい。」
「何故？」と謂ッて、巨漢は、大きな眼を光らせて、「お前、それぢや何か、光さんの東京行のことに就いて、何か聞込むだことがあるのか。」
「然うです。實は、私は、今朝其の事に就いて、光さんから相談を受けたのです。」
「今朝？………」と巨漢はまた、微笑むで、「それぢや愈々、能々の懇意と見ゐるな。それで光さんは、何んと謂ッてゐたな。」
「光さんは、もう東京へ行きたくッて行きたくッてならないんです。心はもう東京へ行ッて了ッてゐるのです。」
「そして寛齋先生……… お祖父樣は何ういふお考なんぢやらう。お前知らんかね。」
「先生は、何方とも光さんのお心任せになされて、まア御承知なされたんださうです。ですから光さんの東京行は、大方定ッて了ッたやうなものなんだ。」
「然うかな。」と巨漢は、深い歎息をして、そして熟ッと考込むだ。

●骨董錄　繞檐點滴如琴筑。欹枕幽齋聽初奇。憶在錦城歌吹海。七年夜雨不曾知。這は是れ最も人口に膾炙せる陸放翁の名吟なることは今更云ふ迄もないが。此詩の幽靜閒寂にして一種、禪家の所謂る悟道の氣味あるは掬すべしだ。所が若し放翁をして錦城の歌吹海を去りて後。終身滿洲に居らしめたならば。今日世界が此佳作を得て居ることは出來まいと予は思ふのだ。何故なれば予が營口や大連附近に於ける一年間の實驗に徵すれば滿洲にては春雨にも秋雨にも到底琴筑の如き點滴の奇を聽くことが出來ぬ。全体雨や雪の降る回數も甚だ少いが其降る時の景狀と來たら或は一種淒慘荒涼の氣象はあるが此詩に於ける樣な趣味は絶無であるからである。之に付けても思ひ起すは日本內地の昨今だ到る處として桃花滿地雨蕭々とでも云ふ樣な趣味のある春雨の降らぬことはない。斯んなことを謂つて同胞在留諸君に懷郷病を起させるではないが。とても滿洲へ來ては詩を作るより田を作る主義でドシ／＼働いて金でも儲けなければ埋め合せがつかぬ。下司の話は下がゝりか喰物で結ぶと云ふが此話もガラにない風雅めきたことを云てたが。何時の間にかとう／＼沒風流の錢儲談に變じたさらばこゝらで擱筆としやう。

●狂雪　已に開河を見て而して狂雪霏々滿城を壓す、天候の血迷ひ何ぞ其れ奇にして怪なる。然れども近頃の血迷ひ沙汰は翅に天候のみに非ず、既に日東帝國の義戰に賴りて滿洲の關鍵を解放し、風氣漸く暢達せんとし、三省當軸の間切りに排外の說を持す、是れ豈春風吹到尙昨今の狂雪を見るの類なる無からんや。春雪融け易しと雖も、滿路泥濘、數日の行路難を忍ばざる可らずとする、是れも亦我前程の累ならずとせじ、狂雪の說を作る（△△坊）

遠征雜詩　犀陽

不如戰勝民

解紛排難豈無人　米國調和奮約新
宇氏聲名聞列國　不如戰勝利權民

謳歌聖代

謳歌聖代曲三終　賀電一流萬里通
綠眼男兒眞諒意　北風方靜瑞雲紅

日本妙攻防

露國艨艟怪力長　不圖日本妙攻防
可憐韓滿俄王覇　玄海灘邊忽滅亡

鶯　梅の里人

溪間なる水に姿を寫し見て乙姬鶯の身粧ひする
雨そゝぐ園の花梅枝垂れてなく鶯の聲の樂しさ
春の日を南のまどに書を繙けはその吳竹に鶯の鳴く

●頭蛇袋　▲『花ぐはし櫻の花のたねあまたまきておきませ蒙古大野に』とは是れ佐々木竹柏園が鳥居龍造氏の夫人きみ子が蒙古行の首途を歌ふた句である蒔くべき花のたねは蒙古許りで無い▲滿洲博覽會の觀覽券に富籤を附する話がある滿洲を一大賭博場のやうに心得るは間違であるが是れも人氣吸收策なら仕方が無い▲梅田停車場の凱旋紀念帖には大山元帥が「吟花弄月赫山書」と書き兒玉大將が「柳無雪折源太」と書き福島少將は「揚武安正」と書くなど色々面白いのが多い中に單に松坊といふ名前で「三寸の舌は能く朝鮮を取る百萬の軍は一文の償金を取る能はず」と書いたのは思ひ切つた徒らである▲從軍徵章の總數は約百三十萬個一個三匁とするも三千九百貫目で其金高は一個十五錢とすれば十九萬五千圓を要する（黑坊主）

廣告

公告

電話交換加入者募集

當局電話交換加入希望の者は至急申込可し

追而二月十五日以前に申込みあるも未だ架設に至らざるものは重て申込を要す

明治三十九年三月三日

營口軍政署電話局

盛京寫眞俱樂部

第一條　本俱樂部ハ盛京寫眞俱樂部ト稱ス
第二條　本俱樂部ハ寫眞術ノ研究家ヲ以テ組織ス
第三條　本俱樂部員タラントスル者ハ部員ノ紹介ヲ要ス
第四條　本俱樂部事務所ハ假ニ營口元神廟街三船寫眞店內ニ設ク
第五條　本俱樂部ハ同好者相互ノ娛樂ヲ謀リ兼テ寫眞術ノ研究ヲナスヲ以テ主眼トス
第六條　本俱樂部ハ毎月一回（第一ノ日曜）假事務所ニ品評會ヲ開キ部員ノ撮影シタル寫眞ヲ蒐集シ出席者ノ互撰ヲ以テ其等位ヲ定メ優等ナルモノニ限リ是ヲ假事務所ニ陳列シ公衆ノ縱覽ニ供スルモノトス
第七條　本部員ノ撮影シタル寫眞ハ此ヲ假事務所ニ保管シ置キ希望者アル時ハ（撮影者ノ承諾ヲ得タル上）相當ノ代價ヲ以テ讓渡スル事ヲ得
第八條　第六條ノ優等品ハ次回ノ品評會ニ於テ抽籤ニ依リ部員ニ頒ツモノトス
第九條　本部員ハ假事務所備付ノ器械附屬品及ビ暗室等ヲ隨意使用スルコヲ得ベシ
第十條　本部員ハ會費トシテ毎月銀三十錢ヲ出金スルモノトス

明治卅九年三月十八日

盛京寫眞俱樂部

發起人　稻垣仲太郎　黑澤禮吉　相部政太郎　前田鋠次郎　黑澤茂雄　後藤鱗太郎　齋藤健太郎　小河原政藏　岩間善五郎　小林隆雄　祠崎富三郎　上野正則　三船秋香

質屋營業

精々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候

營口南永世街憲第三十六號

北斗洋行質屋部

料理部開業披露

弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就ては座敷向き等も凡て改築仕日本式の粹を拔き藝妓仲居も弊店付として內地より呼寄せ特に料理は東京有名の廚士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈々本日より安直を旨とし開業仕候何卒賑々敷御來遊の程偏に奉希上候

追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候

旅館　第一營口ホテル
料理　第一樓

お料理
満月
満月支店
平の町　電（六二）
平の町（元都樓跡）
店主　吉本德吉

和洋會席　御料理

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候

營口永世街二本町

日本館本店

各位樣

萬事勉强乘車乘船好位置

營口中央市場前

旅館　**東京樓**

店主　熊田兼次郎（電話百七十八番）

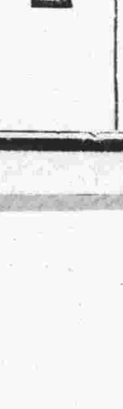
即席和洋料理　東京樓支店（電話四十四番）

西洋料理仕出し御需に應ず

西門外大通　鐵嶺

御旅館　御料理

福屋



營口　本店　彌生　電話四一番

鐵嶺西門外大街　支店　彌生

今回新に鐵嶺支店を設け旅館及會席御料理營業仕候間本店同樣御引立之程奉願上候

館主　宮下只七郎

一位置　西門より西の方五六軒北側に候
一構造　室內裝飾等日本式　特別室あり凡て營口本店の設備に比し優るとも劣るとなし
一待遇　は親切と叮嚀を旨とし調理萬端十分注意仕候

御手輕料理

一釜飯御一人前　銀五十錢
一湯豆腐一銅壺　銀二十五錢
一突出しの外は御注文なければ差上不申候

營口元神廟街二〇九號

月　日

翁亭

材木
荒物
販賣

營口永世街第一八四號旧野町
秋田洋行
本店　下關　秋田寅之輔商店

CARTRIDGES.

We have just received a large assortment of Sporting Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which we are prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

獵銃彈新荷着
第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらず御注文被下度候
但貸賣一切御斷申候
ブッシ商會

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候
謹言

本家　日本東京神田鍛冶町
堀內大藥房
淺田飴（あさだあめ）
肺療痰喘氣急傷風發熱小兒風疹病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥
有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣
永世街　**東瀛大藥房**
房主　藥劑師中馬龍造

石材、碎石
瓦、煉瓦
並に自家製造　廉價販賣
營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

廣告
營口日本館奉天支店
私義今般都合に依り料理店を廢業し御用達商專門と致候爲め左記之商號に改名す
三月二十二日
奉天城內　**三野商店**

御旅館　**豐陽館**
上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米瀛船乘船取扱
館主　米田藤吉

醇良自釀清酒

札幌ビール
朝日ビール
口付莨大和
酢
醬油　瓶詰樽詰
菓子
罐詰　色々
洋酒類
右取次販賣

牛莊港東營口
宅合名會社
營口支店

ゼム
賊莱口中香藥
ゼムハ著大ナル効能ト愛スベキ美味馥郁タル香氣ヲ有スル良劑
財莱者芳香馥郁而美味可愛靈約也
大日本東京
山崎愛國堂
大藥房處修
大淸國發賣處
淺野大藥房
營口永世街（二本町）
各國有名靈藥總發賣處

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

官製口付莨、文房具
和洋酒類　白米
罐詰、菓子
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰　卸商
防寒具、安價販賣
營口西北街
豐生洋行
（電話十三番）

發賣　料木　標子　木板
淸國營口二本町二五五號
塩川商會
主任　鹽川峯吉（電話一三六番）
遼陽西門內　鹽川商會
●建築用材北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘
外に電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

大連市信濃町卅九號地
旅人宿　東館
特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

大日本帝國醫科大學模範藥局御用
攝津灘石崎合資會社釀造
醇良清酒
澤之鶴
滿洲特約大販賣
清國營口西北街
裕和盛號支店
電話八十一番
大連湖北彩宗每日賣出
東淸鐵道裕和盛運輸局
○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種
○支店韓國京城、仁川、木浦、旅順、鐵嶺、
○支店淸國、芝罘
○本店日本長崎梅香崎
澤之鶴は　既評に定ある天美錄！
裕和盛は　清商中日本通の張本！

軍隊用雜貨
日用品雜貨
吳服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
其外新荷着精々安價販賣
營口永世街七十號（第二市場東）
石原商店

雜貨
醬油
木炭
すし米
清酒　大樽　半樽
營口西北街
阪神組

時刻

塘沽至北京	上六、〇〇	下二、〇六
天津至北京	上二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、〇〇	下六、四五
營口至山海關	上六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	上七、〇〇	下四、五五
溝邦子至新民	上三、〇〇	下六、五七

市場北三階樓 時計店ノ二階 宮原公司

ペンキ塗請負 京阪組 其外錺物諸般

昨日の氣温　最高溫度三十三度八（昨年との比 低十九度三）最低溫度二十六度六（低〇度四）

宮門抄

二十六日 兵部 太僕寺 廂白旗值日 外務部引見四名 兵部三十一名 刑部十五名 都察院一名 正藍滿二十名 道府丁惟魯等謝恩 直隸河南試用道李同卿齊鴻聲謝恩 全興夏孫桐劉汝驥伺候 召見 召見軍機 全興 夏孫桐 劉汝驥 都察院 貴秀遞封奏各一件

上諭恭錄

二十六日奉

上諭浙江紹興府知府員缺着貴福補授欽此

上諭伊克坦現在穿孝都察院左副都御史着麒德署理欽此

代論

感情說（京師譯學館本年正月念三日課）

宜黃符鼎升

民生不易。禍至無日。日討國人而申儆之。此楚之所以伯也。夫差而忘越人之殺而父乎。則對曰。唯不敢忘。此雖以勾踐稱蠡之君臣。而卒覆敗於吳也。夫立國之道。自强之謀。爲勸學。爲詰戎。爲生計之開源。爲工商業之淬厲。千頭萬緒。不可究詰。乃歷史之所歸功所褒美者。斤斤於是。是豈無故哉。吾聞之斯賓塞爾曰。政之合道者。以興奮民行爲歸。而民行之隆汚。視民心感情之何若。又聞之爲心理學者之說曰。感情之厚薄。視外界刺激之强弱爲差。吾中國之古訓曰。墟墓之間。未施哀於民而民哀。社稷宗廟之中。未施敬於民而民敬。合諸說而觀之。欲物恥之振。國恥之興。於制行之端。感情之發。不可不三致意也。嗚呼。千年大夢。今日初醒。萬劫沉淪。際茲呼吸。震旦青年。皆自認爲國民之么匿。負前途之責任。以置身於學界。曾幾何時。青年隳落之議。騰播于衆口。德育維持之說。怵惕于老成。自斯以往。舟流焉屆。欲振拔而策勵之。又非空言所能爲功。夫數紙倫理學之講義。數十分鐘講堂之指授。而謂可以增靈臺之毅力。愼衾影於獨知。其誰信之。歐美之德育。既基以蒙小學之修身教科。而復以宗教之昭垂。震動刼持。使奮其感情於不自覺。吾輩既無積漸薰陶之小學。又無刼制腦筋之宗教。僅恃知識增進科學發明。以求收明通公溥之效。是何異談飲說食。求充飢渴哉。然則將奈何。曰不求于知。而求于情。日求于劇烈之激刺。以深其感。亦惟法楚莊夫差而已。竊吾儕居廣廈細旃。則思遼陽奉天之同胞。人亡家破。揮霍金錢。則思八萬萬之賠款。淸償無期。飲食徵逐。則思南非礦底之華工。慘無天日。呼使僕役。則思双料奴隸之名詞。刺骨寒心。遨遊都市。瞻望城闕。則思庚辛之間。豆粥素衣。硝烟彈雨。津沽之險巳夷。城下之盟慘辱。嗚呼。言念及此。心碎淚枯。漏舟厝火。夫豈云危。鼎鑊刀鋸。夫豈云險。雖荊卿湛七族。要離燔妻子。視之蔑如也。以如是之感情。如是之熱血。何事不可爲。勸學也。勵行也。遏慾也。守紀律也。固團體也。犧牲一身以爲群也。一以貫之。如萬斛泉源之湧爲百派。萬鈞汽釜之潑其機輪。方諸枝枝節節而求之者。難逸勞易之數。奚啻霄壤哉。夫危險悲哀之歷史之前途。疇不之知。是喋喋者。殊令人厭。顧常人之情。於歷時久而漸忘。以外界還而遂忘。今也。鍾鳴而集。旅進旅退。伊唔覘嗶。今日明朝。耳不聞戎馬之聲。目不睹剝膚之慘。聯軍故事。已付諸父老傳聞。歌舞湖山。依然是太平如昨。戒懼之或怠。自制之或疎。安逸之念之或萌。當亦吾儕所不自諱也。以危險悲哀者。日懸於目。日聒於耳。以懼以恥以奮。庶有慘乎。夫持久之難堅。蘭芷之易變。一時血氣之不可以恃。鑒於東瀛學界可以知矣。彼其初固發于絕對之愛國心。捐親戚冒險艱而求學者也。

中外要聞

●議院緩設之原因　聞內廷的確消息日前張香帥電奏朝廷開通風氣設立三等議院云云　旨着政務大臣會議奏覆昨慶邸徐鐵瞿王會議咸以考察政治各大臣回國再行設立議院今早　召見軍機慶邸已面奏允准矣

●電陳西潼鐵路　聞官場人云日昨陝甘制軍升吉帥電奏西潼鐵路由官修築不易請　旨允准全省招股修築以期易於籌欵云云　旨已交政務處存記矣

●慰問鄰邦　外部堂憲曾議法國煤鑛及德國水災擬電詢出使法德兩國欽差向法皇德皇問並稟請慶邸可否入奏賑恤以篤邦交

●南昌教案之處置　外部議定南昌教案英國教士無辜遇害擬在敎立碑記念以旌死事並照會駐京英公使俟該省全案定讞再議償欵云云（法國教案交涉尙多外部堂憲雖與呂大臣交涉均無允可之語）

●催辦法政學堂　昨政務處王大臣會議現當　朝廷改政變法學術爲繁且已改訂法律派員考求東西各國政治此後新政之施行將必日多非空疎無據與泥守舊學者所能任事若以培植人才非學不成應即通咨各省督撫速即設立法政學堂考取候補道府以至佐雜壚務人員入堂肄業專習裁判理財交涉學務諸要政務須早爲開辦不准觀望遲延其有設立者飭令隨時改良如原有之課吏館亦著改爲法政學堂以期循良可選政治修明云云已照議發電矣

●法律館竣工之預期　宣武門內象房橋設立法律館期在五月竣工法律員辦理部事就緒即將刑部改爲法部再議奏裁撤該署書吏之事云

●俄約漸形順手　聞俄使館確確消息中俄議約之條欵屢經唐侍郎來館與璞欽差爭執語甚齟齬日前又有法公使與璞欽使會晤曾勸璞以和平磋商免貽他國口實云云近聞中俄大臣所議頗爲順手

●允黑龍江自辦鐵路　聞黑龍江省程留守德全前電政府請自集華股築造齊齊哈爾鐵路一至呼蘭一抵愛琿以免俄人垂涎奉　旨交戶部議奏巳經　批准盖俄國垂涉此路巳非一日於此次議約時亦邀求此路權然政府未承認俄之邀求巳經允准黑省自辦可以知外部拒絕俄之邀求矣

●摩洛哥問題彙誌　阿塞土拉斯會議之法國代表人羅君刻正纂訂摩洛哥警務問題交涉案件以期呈新任外部大臣普爾呂亞君查閱　與國因摩洛哥問題提議擬調停法德兩國轇轕刻已被法拒絕但摩洛哥問題是否轉圜可於禮拜日（即華廿四日）決定矣

●賑款匯往日本　皇太后特發帑十萬兩助賑日本荒災一節已誌前報茲聞外部奉　旨已於二十一日將該欵交內田欽差於二十二日交正金銀行轉匯日本並聞近來因銀價漲昂該款合金十五萬餘圓云

雜報

●暗察明炫　昨聞河北軌站來人云有偵探某係天津人氏年約不惑衣帽華燿外披斗篷每向人誇其在日軍報効之功得命暗查之職前日在車站搜檢過客有一華員實係承上命辦公持有護照不容　搜檢致忤某怒疾聲詬罵站長知之特來袒護該員倍忤某怒幷將站長叫駡多端兩相決裂勢要同見長官有一知事者向某排解曰君既係暗查不宜明炫若君之職銜與服色之狀又實係誇耀於人凡匪人有弊端者孰不望望焉預避之尙何暗查之有某被折服遂由此罷云

●柳河漲水　昨由新民府來人云前數日柳河溝突然漲水高處約二丈餘經一晝夜始退附近居民粟倉草垜多被飄蕩該處鐵路亦微受損傷云

●巖墻壓斃苦役　東埠因鋪墳道逐僱苦夫工作昨日有十餘夫將一巖牆剷作上斷下銳之勢蓋欲藉勢推仆也亭午憩息値北風凛冽苦役等坐其下權以蔽風詎該墻驟然傾覆勢若山崩竟將數人壓斃於內迨掘出視之一人頭顱壓於腔裏一人臟腑迸冒出肚腸一人體肢損折氣絕三人之死慘巳極矣聞蒙英人某憐憫買棺貯埋外有被壓傷三人巳送醫院調治云

●青泥窪來貨　昨聞埠商云牛家屯火車站近日由青泥窪運來洋綫四百餘捆花旗布八十餘捆洋雜貨大箱子三十餘箇煙草百餘箱紅糖八百餘包共用馬車駁進埠內云

●土藥局失貨　本埠東街有長茂興土藥局前二日由青泥窪販買晒西土藥二百五十二包當有稅單載紙一切即着其鋪夥某押隨汽車運來至牛家屯卸置站中時該夥某離貨而去次日去取竟剩八十包丢失一百七十二包向車守等追詢咸答以慢慢偵查該商情急即赴軍政署禀明云云

叢談

●英總兵　粵匪之亂英國總兵樂德克奉其國主之命駐防甯波以保衛國之商旅甯城之復與有力也及九月中賊大隊攻撲寧郡樂率洋兵五十人入城助守出奇制勝嗣因頭勇滋事樂復會同我官軍靖其難爲人恂恂儒雅和衆而識大體寧之官紳皆親愛之　同治四十年十二月我軍之洋將買忒勒攻紹興城中礮死李帥所遺之德克碑未來在紹之洋鎗隊統帥史士良觀察請樂往權代之樂不可曰我國法駐防官不能出百里外觀察強之其國之領事繙譯寺官亦相爲慫恿樂乃以打鳥報其提督而率衆行蓋打鳥則可出百里矣既至與賊戰大破之俟德克碑至乃退明年正月紹城克復樂則因擅離汛地爲其提督劾罷寧人大戚公籲留之不可觀察與衆士紳籌商餽白金萬以爲贐樂不受固與之則曰我國法人不能受隣國贈贈也無巳則留二千金以犒其軍士曰是從我中國捍患者其八千金斷斷卻之矣臨別流涕謂觀察曰我與寧人相處久洋槍隊勇丁訓練已成不可以賊平而遂撤之留之不特以自衞亦可備意外豎須切記之遂揚帆去

NEWCHWANG, SATURDAY, MARCH 24, 1906.

THE RUSSO-CHINESE CONFERENCE, (PART XII.)

We own with perfect frankness that Japan has her own share of those we may call bigoted patriots who, either tied down to their narrow-minded notions of what are best for the present Japan or through their inability to grasp intelligently the ever-shifting status of international relations, fail to command from a sufficient height a clear unobstructed survey over the grand panorama of the ceaselessly moving and changing evolutions of world-politics. Labouring under these limitations, they may freely ventilate their erroneous opinions based upon defective or deflected views as reflected on their mental optics, or much worse, act upon them.

However no country on earth has been free from this type of zealots, not even the United States or Great Britain either; nor will they be ever got rid of clean. Notwithstanding, no nation will seriously suffer from the presence of those bigots, so long as their wild ventilations carry but little weight with and their errors are rectified in good time by the higher authorities.

Japan has been exceptionally fortunate in never missing in power such men as were capable of taking in the general situation in its true light and acting accordingly, even in the face of strong oppositions from prejudiced enthusiasts at home, who have never been so few in number as now. Moreover, the present Premier and Foreign Minister Marquis Saionji is universally conceded to be a giant in intellect towering far above his colleagues and predecessors—a statesman of the most enlightened and advanced views. He enjoys the confidence of the Court without bounds, with Marquis Ito at his back to advise and support him, besides being the leader of the most powerful political party the Seiyukai. His Ministry being barely 3 months old and having been mostly taken up so far with the Diet in session, it would be highly unreasonable to expect every slight dislocation in the *post-bellum* anatomy to have been properly adjusted by him.

Japan is to be warmly congratulated upon placing the affairs of the State in the safest hands existing, and rests assured that, time being allowed, all causes for just complaint will be speedily and gladly removed, without being urged by outside pressure.

The above explanation is volunteered in special reference to matters in Manchuria that appear to have become very lately the common target of harsh criticisms, that are uncalled-for in the majority of cases, even by the best of Japan's friends.

So much in passing, for disarming the needless suspicious too hastily formed of real Japanese intentions in Manchuria.

To return to the point under treatment, with regard to any of those salient features of the superior advantages enjoyed by Japan, before she had come of age, China can hardly draw a parallel in comparison with the object of her emulation.

Allowing that her territory is by tens of times larger, this fact implies a serious drawback in that the unification of the new common ideal and of every reformative institution such as fiscal, educational, judicial, and police systems, is rendered a matter of all the greater difficulty, necessarily requiring for their happy attainment a proportionately longer period of time than was needed by her more favoured sister.

Mr. H. Thomas in the I. C. Customs service has lately arrived from Swatow at his post here as Boat Officer, to fill the vacancy created by Mr. Geddes's recent transfer. We offer him cordial welcome.

Mr. M. Odagiri, ex-Consul General at Shanghai, is reported to be on his way to Newchwang, to supervise the interests of the Yokohama Specie Bank in Manchuria, as a member of the Directors' Board.

The Administration received a wire last night from Lt.-Col. Yokua informing of the departure of himself and his family from Tokyo yesterday evening.

(Mar. 23, 1906.)

JAPAN	Bank T.T.	100	LONDON	Bank T.T.	2/-3/8
	" Dem'd	100 1/4		" De'd	2/-7/16
	P'ate 15 d/s.	101		Cr. 4 m/s.	2/1 1/16
SHANGHAI	Bank T.T.	71	AMERICA	Bank T.T.	49 1/2
	" Dem'd	71 1/4		" Dem'd	49 3/4
	P'ate 15 d/s.	72 1/4		Cr. 4 m/s.	51 1/4
TIENTSIN	Bank T.T.	102 1/2			
	" Dem'd	102 1/4			
	P'ate 10d/s.	101 1/4			

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館料理 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館料理 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 柏屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 上金銀行西三程

料理 千鳥 元神廟街百三十三號 店主 吉住善藏

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ (電話一四五番)

旅館 竹村館 永世街二十二號 店主 麻田久二 (電〇五二)

旅館 大和館 永世街三十四號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

京東 生蕎麥 一式 東庵 元神廟(電〇百五十九)

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六番地 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街
さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 並ニ溫泉 一力 營口永世街 店主 堀万助 毎日新湯

和洋料理 松月亭 本店 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 滿洲ホテル 支店 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 營口ホテル支店 主任 井上源吉

御料理 會席 素水館 主任 朝枝團捴

旅館 西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

和洋料理 遼東館 遼陽城内東

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理 會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館 御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 玉家 主任 西野治三郎

御料理 會席 來々亭 主任 石田清

奉天旅館料理屋案内

旅館 奉天館 奉天城内鐘樓南大街 (電話一五)

和洋御料理 日清倶樂部 奉天大南門裡大街 (電話一四)

商人御定宿 瑞豊館 奉天小西關大街北側 館主 沛野嘉吉 (電話 號)

旅館 天神館 奉天小西關大街北側 館主 荒川一松

旅館料理店 日の出樓 奉天小西門通(元紅葉館跡) (電話七號)

旅館料理店 日盛館 奉天小西關大街南側 館主 入江信男 (電話 號)

旅館料理店 梅松館 奉天城内灰市街東華門宮殿東側 (電話)

旅館料理店 大和館 奉天大西關高臺子廟前 館主 今井コノ

旅館 大正館 奉天小西邊門外十間房道北側 館主 大草村行
奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すべき様に相成居候間御投宿の節至極便宜に御取扱可申上候以上

旅館兼料理店 高砂館 奉天城外十間房第十五號

奉髙館 奉天城外廿四號高砂館支店 館主 宇本智平

旅館料理店 日奉館 奉天小西門外サ街 館主 原田清五郎

高等旅館 東洋館 奉天大西門外小什字街(電話號) 主任 藤島初野

御料理 梅ヶ枝 奉天小西門より一丁西の辻北入 館主 辻井ムメ

旅館料理店 勉強館 奉天小西關外北長發園隣

一和洋御料理 遼東館 遼陽城内東街
本館は遼陽城内第一繁盛の地にあり内外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勧に依り宏莊美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得べく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彦に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成
營口金城ホテル旅館部

藝妓仲居 **新來**
金城館料理部

奉天小西門外
會席御料理 高等御旅館 金城館

一關内外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候 但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ事務取扱
一海關手續
一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大清通運公司 營口支店

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ぶも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一(森病院三軒目) (電話百二十七號)

新着の御知らせ
東京より
蜂印香竄葡萄酒、羊羹、味付海苔、旅行用トランク、手提鞄、御婦人足袋、謄寫版、眞筆版、コツピープレス等
其他
雛立印白酒、寄木細工、漆器、陶器、金屏風等夫れ〳〵産地より着荷仕り候
新到
各種皮包、皮箱、文具格、畫掛、畫漆茶机、畫漆茶盤、金漆畫屏、金漆鏡臺、眞筆版、謄寫版、極上麝香水、蜂牌香竄葡萄酒、
營口 加藤洋行 (電話八十番)

飯塚工程局材料部
營口元神廟前 (電話百三十五番)
弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干墟魚 ○石灰
喜久洋行
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
永世街八十號(電話百五十二番)

大連 **東洋ホテル**
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

發賣 標子 木板 料木
營口青堆子
清水當木局
(電話九十四番)

故沖禎介 追悼の爲め江湖諸賢より玉梓して一の紀念帖と爲はりたる詩歌書畵を編集上より通知有之候就ては其紙數を一葉にても多からしめ以て存亡父子共の光榮を大ならしめ度くと存候間廣く江湖の同情を得度廣告候也
一、刻版は四月中に取かゝる事と存候
一、紙判は美濃紙大
一、沖莊藏在沖縄縣那覇地方裁判所官舍
一、御問合の件あらば左に
新民府奈良崎八郎
營口瀛華學院上野政則
大清通運公司安田貞藏
同志友人 敬白

爲替劵無効廣告
清曆本年正月二十二日弊號は在阿什河和順昌に於て本年二月二十五日營口にて支拂ふべき爲替劵即該號昌字十七號永記名下銀五千三百五十兩仝十八號功記名下銀二千六百七十五兩の二通を買受け去る二十二日阿什河より合盛信局に托し送附の途中之を紛失せり依て直に該營口分號へ此由を説明し以后該劵發見するとも無効に御坐候間此段廣告候也
營口 永同和主人啓

爲替相場 (三月二十三日)

日本向	百圓二十五錢	(軍票百圓に付)
上海向	七十一兩二十五錢	(同)
天津向	一百〇二圓二十五錢	(百弗に付)
芝罘向	一百〇三圓二十五錢	

日本品最近物價表

紙類 加藤洋行
一半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙 仝 七圓五十錢
一仙花紙 一帖(六十枚) 六十錢
一仝 二十枚綴 三錢二厘以上四錢
一狀袋 百枚 十三錢以上十八錢

室内裝飾品及寢具 矢野洋行
一蒲團 三枚組 六圓九十錢以上六十五圓
一座ブトン 十帖 六圓五十錢以上三十五圓
一疊 二圓六十錢以上三圓
一蒲棕 十枚 八圓
一麻緞通 仝 一疊敷 三圓
一綿緞通 三圓五十錢

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.20 per 3 months

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 銀八十仙
半ヶ年前金 銀四弗八十仙
一ヶ年前金 銀九弗六十仙